



## 昭和30年代の諸沢の新生活運動

「新生活運動」と言っても、ピンとこない人も多いかもしれません。地域によって盛んなところとそうでないところがあり、また取り組まれた時期も異なっていたりするので、なかなかイメージが一致しない面もあるようです。

『デジタル大辞林』で「新生活運動」を引いてみると、「虚礼などを廃止して、生活を合理化、近代化しようとする社会運動」と出てきます。冠婚葬祭を簡素化し、かかる費用をなるべく抑えるようにする運動はその一例ですが、それ以外に地域の衛生環境の整備や学習活動、道路や水道などのインフラの整備も含む場合があります。近年の歴史研究では、特に昭和30年代の運動に関心が寄せられており、全国各地の事例が少しずつ明らかになってきています。

常陸大宮市域では、昭和30(1955)年に茨城県新生活運動推進協議会が設立されて以降、特に活動が盛んになりました。とりわけ質の高い運動を行い、全国的にも注目されていたのは、山方町の諸



茨城大学人文社会科学部  
准教授  
佐々木 啓  
近現代史部会 部会長

沢地区でした。諸沢では、住民同士の丁寧な話し合いを重ね、道路の改修や電力の導入、簡易水道の整備など、生活向上のための取り組みを進めるとともに、社会学級や婦人学級、老人クラブに若夫婦の集いの組織化など、住民相互のコミュニケーションと学びの場を増やす試みをおこないました。これらの活動が評価され、新生活運動協会の昭和36年度新生活運動優良地区の一つに選ばれ、副賞として郵政大臣賞を授与されています。【画像】

昭和30年代は、高度経済成長の前半にあたり、農村で暮らす人々の生活も大きな曲がり角を迎えていた時代でした。過疎化は進んでいきますし、農家経営の先行きも明るいとはいいがたい難しい時代であったと思います。そうしたなかで、住民相互の「話し合い」を基礎にして、新たな文化や技術を学び、生活上の課題に向き合っていこうという真剣な取り組みが、諸沢をはじめ常陸大宮市域の各所でおこなわれました。新生活運動の評価は様々ですが、そこから学ぶべきものは決して少なくないと思います。

■問い合わせ■  
文化スポーツ課  
文化振興グループ ☎52-1111(内線343)



▲昭和 37 (1962) 年の山方町報